

第61回 通常総代会を開催しました。

6月17日(火)、第61回通常総代会を開催し、第1号から第5号までのすべての議案が賛成多数で可決されました。

総代会とは、

生協の運営に関わる重要事項を決定する、最高の**意思決定機関**です。毎年6月に組合員の代表となる「総代」が参加して開催され、京都生協の1年間の予算や活動方針、役員の選出などについて確認します。今総代会では、総代505人中469人が出席（書面による出席302人を含む）し、185件の「私の想い」が寄せられました。総代会の開催にあたり、京都府や京都市からご来賓のごあいさつをいただきました。



理事長・専務就任のご挨拶 — 第61回通常総代会を迎えるにあたって —



理事長 たかくら みちたか
高倉 通孝

第61回通常総代会にあたり、日頃より京都生協の事業や活動にご参加いただいている組合員の皆さまに、心より御礼申し上げます。昨年は、多くの方々のご支援をいただき、創立60周年を迎えることができました。改めて、組合員の皆さま、生産者、メーカー、行政、地域団体など、関わってくださったすべての皆さまに感謝申し上げます。

昨今、気候変動による自然災害や平和の危機など、社会的課題が山積しています。また、物価高騰が続く中で、暮らしの先行きに対する不透明感が増しています。2025年は被爆・戦後80年という節目の年を迎えるだけでなく、国連による「国際協同組合年」にも該当する重要な年となります。「協同組合はより良い世界を築きます」をテーマとし、平和で持続可能な社会の実現に向け、生協の果たす役割がこれまで以上に重要となっています。地域社会と組合員の暮らしを支える存在として、「価値ある商品」の提供や産直・地産地消の取り組みを進めるとともに、多様な暮らしの課題に向き合い、SDGs達成への貢献を目指してまいります。今回の総代会をもって新しい体制となりますが、事業と活動を通じて組合員の暮らしに寄り添い、つながりを大切にしたい取り組みを推進してまいります。「京都生協があって良かった」と感じていただける未来を、共に築いていきましょう。



専務理事 たきもと よしみつ
瀧本 剛満

第61回通常総代会を経て専務理事に就任いたしました瀧本剛満です。変化の激しい時代を反映し総代の皆さまから暮らしに関するさまざまな声をいただいております。その声を大切に“COOPはHOPE”となれるよう事業を進めてまいります。希望に満ちた京都生協の未来と一緒にイメージしていただければと思います。

2024年度 取り組んだこと ～特徴的な取り組み～

持続可能な生産と消費、事業の推進

- 家計の節約意識が増している中で、宅配事業と店舗事業では前年も好評だった「くらし応援全国キャンペーン」に取り組みました。
- エシカル消費対応商品の普及、創立60周年記念商品として商品製造時に出る残さを活用したアップサイクル商品を開発しました。
- 物流品質向上などを目的とした新宅配物流センターが稼働しました。
- 7月にコープ醍醐石田をリニューアルオープン。新しくエシカルコーナーを設置しました。



コープ醍醐石田

誰もが安心して暮らせる地域社会づくり、SDGs達成への貢献

- 「アースデイ@コープ二条駅」を京都市、無印良品と共催し、店内で「エシカル消費推進イベント『エシカルな商品をさがせ!』『オリジナルマイバッグづくり』」などを実施しました。
- 社会貢献活動助成金制度で、10団体への助成を行いました。

創立60周年の取り組み

- 組合員や職員に向けたイベント企画、記念ロゴやムービーの制作などに取り組み、専用のホームページを立ち上げてお知らせしました。
- 地元取引先などと協力して計32アイテムの60周年創立記念商品を開発しました。
- 60th「Coop Fan Meeting in 福知山」を開催し、メーカー・生産者と組合員との交流を深めました。



Coop Fan Meeting in 福知山

2025年度 取り組むこと

持続可能な事業の推進、組合員満足の向上

- 日本生協連、コープきんぎと連携して価格面でのくらし応援をさらに強めます。
- 組合員の声やアンケートのフィードバックを大切にし、サービスや商品開発に生かしていきます。
- 夕食サポート事業のエリア拡大やサイドメニューの品ぞろえを拡大します。
- コープ二条駅、コープ醍醐石田での改善結果を生かし、コープ祝園駅リニューアルを成功させます。

事業や活動を通したSDGs課題達成への貢献

- プラスチック使用量削減を目指し、店舗では、全店でレジ袋の取り扱い終了とともに、お買い物袋持参運動を推進します。あわせて日本生協連・コープきんぎ・取引先などと連携して容器・包材など使い捨てプラスチック使用量の削減を進めます。
- 被爆・戦後80年を迎え、「京都生協平和への願い」に基づき、核兵器のない平和な未来を目指す取り組みを強めます。
- 「国際協同組合年」を迎えるにあたり、他の協同組合とも連携しながら協同組合の価値を再発見できる取り組みを進めます。



レジ袋取り扱い終了ポスター



今総代会には 185 件の発言用紙が寄せられ、5 人の総代が壇上で発言しました

まとめ報告(要旨) ～私の想いとして寄せられた組合員の声に応えて～ 代表理事 高倉 通孝

(1)「アップサイクル※について」 ※本来廃棄される食品を新たな価値ある商品にかえる取り組み
規格外バナナを使用したスムージーなどのアップサイクル商品に対し、食品ロス削減への貢献の面から共感をいただきました。京都生協では60周年記念商品として、地元企業などと共同開発したアップサイクル商品「京都産たまねぎを使ったウスターソース」を供給しました。こうした商品の価値を伝えることが、一人ひとりの環境に貢献する行動につながると考え、これからもしっかりと普及していきます。

(2)「20～30代の新規利用者獲得に向けて、はじまるばこの内容見直し」
ご自身の体験をもとに生協の良さの伝え方の工夫について提案いただきました。若い世代に生協の魅力を伝え、利用を継続いただくには、それぞれの興味や関心に応じた最初の接点が重要です。広報活動の強化やコミュニティづくり、商品・サービスの充実を進めます。育児サポートの取り組み「はじまるばこ」で、ママ・パパがほっと一息つける商品を提供するという素敵なお提案は、貴重なご意見として受け止めます。

(3)「まさに今が生協の理念が生かされるとき」
今の暮らしの先行きに対する不透明感が増す今、理念を大切に生協の役割を発揮するときだと激励をいただきました。2025年は「国際協同組合理年」、協同組合の社会的役割が世界から注目されています。全国の生協と共同し、これまで行ってきた家計応援企画やエシカル消費対応商品の推進を強化し、地域社会や生産者にも良い影響を与える価値ある商品の普及を大切にすることで、暮らしのお役に立てるよう努めます。

(4)「そろそろ男性も参加しましょう」
社会構造の変化に伴う、男性の家庭での役割分担や参加についてお話いただきました。男女問わず、さまざまな立場や背景を持つ人々が参加することで、

より多角的な視点で問題を捉えることが可能になります。私たちの暮らしをさらに豊かにするために、多くの方が「参加してみたい」と思える機会を広げられるよう努力していきます。

(5)「買い物難民救済のお願い」
生協は週1回の宅配事業を通じて、地域約18万世帯の暮らしを支える社会インフラ的な役割を担っています。現在、注文した商品を受け取りに行く「個人引き取り」の仕組みを活用し、地域の活性化や居場所づくりにつながる取り組みについて検討しています。実現には行政・地域との連携、皆さまのご理解・ご協力が不可欠です。一緒に議論を深めていきましょう。

「日本被団協のノーベル平和賞受賞に際して」
日本被団協のノーベル平和賞授賞式ツアーに参加された花垣ルミさんは、自身の被爆体験を通じ、核兵器廃絶の活動を続けておられます。「生き残った者たちが世代を越え励まし合うことが、戦争のない未来を創る希望になる」というメッセージとして受け止めました。今年で戦後80年、戦争を知らない世代が増える中、一人ひとりが大切にされ、安心して暮らせることが当たり前になることを願います。核兵器廃絶と平和への学びを深め、行動する年にしていきたいと思います。

全体を通して
2024年度は皆さまのご利用のおかげで、経常剰余金の予算達成をすることができました。改めて感謝申し上げます。2025年度は供給高と経常剰余金が順調ですが、商品点数の減少や米の価格高騰・不足が課題です。安全・安心な食材の安定供給のために、産直や地産地消を強化し、日本の農業や生産地の活性化を目指します。新体制でも京都生協の理念を大切にし、地域社会の発展と持続可能な世界の実現に向けて組合員の皆さまと共に歩んでまいりたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

第61～62期

新役員が決まりました

地域区選出理事

北ブロック 東ブロック 西ブロック 南ブロック 両丹ブロック



全域区選出理事



監事



議案採決結果

	議案	反対	保留	賛成
第1号	2024年度 事業報告、決算関係書類承認の件	5	6	多数
第2号	2025年度 事業計画および予算決定の件	8	8	多数
第3号	第61～62期役員選任の件	5	12	多数
第4号	役員報酬決定の件	11	18	多数
第5号	役員の退任に伴う退職金支給の件	13	14	多数

■総代出席状況

本人出席166人
委任状出席1人
書面出席302人
合計469人
(採決数は議長2人を除く)

2024年度 事業の到達

■総事業高 842億2770万円(予算差△1億8429万円)

供給高	実績	予算差	前年差
宅配事業	565億9946万円	△2億9253万円	△4億6456万円
店舗事業	246億325万円	+1億3425万円	+17億353万円
葬祭事業	1億223万円	+223万円	+1320万円
小売でんき事業			△6億9910万円
供給高合計	813億495万円	△1億5604万円	5億5307万円

・福祉事業収入: 3億618万円
(予算差 △5481万円)
・その他事業収入: 26億1657万円
(予算差 +2657万円)
※共済受託手数料や葬祭承り手数料、
個配手数料などの収入
※でんき事業は取次契約となったため、
その他事業収入での計上となっています。

■2024年度経営結果

経常剰余金	17億401万円
特別利益	1億2760万円
特別損失	9億4357万円
税引前当期剰余金	8億8804万円

法人税等	4億8264万円
法人税等調整額	1億668万円

当期剰余金	2億9871万円
当期繰越剰余金	2億6264万円
購買事業基盤強化積立金取崩額	1億5000万円
システム最適化積立金取崩額	2億3000万円
人材育成積立金取崩額	460万円
災害対応・支援貢献積立金取崩額	70万円
経営基盤安定積立金取崩額	8億6000万円
社会貢献活動積立金取崩額	200万円
60周年記念事業積立金取崩額	1700万円
当期末処分剰余金	18億2565万円

■経常剰余金

17億401万円(予算差+3億5201万円)
※事業総剰余金から事業経費・事業外収支を差し引きした金額。通常の事業活動をして最後に残った利益です。

■2024年度剰余金処分

法定準備金	3000万円	任意積立金	12億1930万円
出資配当金	5378万円	次期繰越剰余金	2億9240万円
利用分量割戻	2億3015万円		

■出資配当率 0.30%

出資金に対する配当を年0.30%(税引き後0.23905%)とすることを決定しました。本事業年度末(2025年3月20日)に出資金残高を有する組合員で、かつ、本総代会当日在籍している組合員に対して配当します。

■利用分量割戻 0.4%

定款第83条による利用分量割戻は、宅配事業について年間利用高(税抜)の0.4%で行うことを決定しました。ただし、宅配事業のうち夕食サポート、コプでんき、くらしと生協、ギフトは割戻の対象外です。

退任のあいさつ



前理事長
畑 忠男

2011年から14年間、役員を務めさせていただきました。いつの時代も未来のことは不透明で、不安なことが多いですが、そういう意味では危機感を正しく持つ必要があると思います。一方で、未来は自分たちでつくっていけるという点では、明るい希望や夢を持って切り開いていけることでもあります。これからも組合員にとって、そして社会にとっても頼りになる京都生協であり続けてほしいと願っています。ありがとうございました。